
なぜ人はペンを握るのか？

大島カズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なぜ人はペンを握るのか？

【Nコード】

N7199X

【作者名】

大島カズ

【あらすじ】

僕は予知能力がある。これは僕だけの能力かと思ってた。

「私、未来が見えるのよね」

ひよんな事から出会った彼女は言った。

僕は確定された安心に満足していたんだ。

彼女は何が起こるかわからない未来を求めているんだ。

あの人は僕達の事を見てどう思ってたんだろう。

未来を予測する最善の方法は、自らそれを創りだすことである
と言った人がいる。

じゃあ、最善の未来を予測するにはどうすればいい。

その過程にはどんな物語があるんだろうか

（僕の）自己紹介

未来を予測する最善の方法は、自らそれを創りだすことである

b yアラン・ケイ

僕の話をしよう

僕、柳沢和利やなぎさわ かずりは西暦1994年3月21日に生まれた。

17歳高校生この間三年生になったばかりだ。

昔から影が薄く、存在感のかけらもなく、顔も地味（別に不細工ではないと僕は思っている）だった。

成績もぱつとせず勉強は理数が少し高くて文系は平均以下、運動に
関して言えば

基礎体力は平均並みだが球技はてんでだめである。

幼稚園児のときは怖くてジャンプにも登れなかったし

小学校一年生のときは人生初めてのテスト（漢字の）で40点を取
ったし

三年生のときには隣の席の女子のリコーダーを舐めたし

五年生のときは保健室の先生に恋をして保険委員会に入ったし

六年生のときには卒業式で先生に「何を大切にしていきたい？」と
質問され僕は「お金です」と正直に答えた。

中学生なって友達が野球部に入るといっているので僕は軽い気持で入部
したし

近所のお姉さんと何故か仲良くなって初めてお酒を飲んだし
成績は右肩下がりに落ちていくし……

今にして思い返せばものすごい落ちこぼれだったなと思う。

ついでに言っておくが僕は部活で一度も試合に出ていない。

僕のぱつとしない成績ではいい高校になって行けるはずもなく僕は家から電車で一時間の工業高校に入学した。

それからは部活にも入らず、もちろんアルバイトもせず

ただ学校へ行き昼休みに友達と大富豪をするためだけに呼吸して、飯を食って、眠ってのサイクルを送っていた。

次に未来の話しよう。

僕はいつもものとおり7時ちょっと前に起きて用意されていたパンを牛乳で流しこみ

身支度を整え駅へ向かう。電車の中で幼馴染の燐りんと偶然会い話をして電車を降りる（ちなみに燐は、小学三年生のとき舐めたりコーダーの持ち主だ）。

燐と分かれて学校へ向かい、いつも通りな学校生活をすごし帰る。

燐と会う以外なんていうことのない普通の一日だ。

ここで君達は一つ疑問に思っただろう。なぜ僕が未来の話をしたのかというものだ。

そこで君達は思うはずだ「どうせ、予知能力とかだろ」と、結論から言えばそれは正解だ。

なら、次は僕の唯一のアイデンティティともいえるこの能力について話そう。

僕は「夢」という形で未来をみる。その内容は断片的で、何かダイジェストのような感じだと思ってくれればいい。

それがいつから僕にあったのかは覚えていない。ただ僕が小さなと

きこのことを母に話したら「カズは想像力が豊かだね」と笑われた記憶がある。

よくある話だと”未来の見える主人公”みたいなキャラクターなのは「これからどんなことが起こるか判っているから生きているのがつまらない」なんて言っていたりするが僕はそうじゃない。

僕の見る未来は決定事項ではないのだ。くわしくいうなら、数ある未来のうちの一つでしかないということだ。僕が夢で見たとおりの行動をとればそのとおりに未来は進んでいくし違った行動を取れば違った未来がはじまる。それに隣との会話や、今日の大富豪の勝敗がどうなるのか……っていう細かいところまで予知できないのでそういうところも楽しみである。

しかし、僕が一番言いたいのは「判……っているから安心できる」ということだ。

予知のとうりに行動し、嫌な未来は変えてしまえばいいのだ。

だから、今日も僕は僕によって確定された一日を過ごしていく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7199x/>

なぜ人はペンを握るのか？

2011年11月13日06時23分発行